

県下の交通事故 (3月30日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
57年	761件	22人	989人
58年	914件	30人	1,173人
比較	+20.1%	+36.4%	+18.6%



◇ 第 59 号 ◇

発行所
甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人 山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 37-7827

春の全国交通安全運動

5月11日～20日



急いでもきちんと見ます右左

二輪車事故に注意

飲酒運転の絶滅も重点

昭和五十八年春の全国交通安全運動は、五月十一日から二十日まで十日間にわたって実施されます。春の全国交通安全運動は、毎年、四月の新入学期に合わせて行われていますが、本年は四月に行われます。全国統一選挙のため、一カ月遅れて実施されることになりました。本県では、交通安全本部で決定した運動の重点は、①歩行者及び自転車利用者、②に子供と老人の交通事故防止、③安全運転の徹底、④安全確認の励行とシートベルト着用、⑤安全運転の確保、⑥安全速度の励行とシートベルト着用、⑦飲酒運転の絶滅、⑧安全速度の励行とシートベルト着用、⑨安全運転の確保、⑩安全速度の励行とシートベルト着用、⑪安全運転の確保、⑫安全速度の励行とシートベルト着用、⑬安全運転の確保、⑭安全速度の励行とシートベルト着用、⑮安全運転の確保、⑯安全速度の励行とシートベルト着用、⑰安全運転の確保、⑱安全速度の励行とシートベルト着用、⑲安全運転の確保、⑳安全速度の励行とシートベルト着用、㉑安全運転の確保、㉒安全速度の励行とシートベルト着用、㉓安全運転の確保、㉔安全速度の励行とシートベルト着用、㉕安全運転の確保、㉖安全速度の励行とシートベルト着用、㉗安全運転の確保、㉘安全速度の励行とシートベルト着用、㉙安全運転の確保、㉚安全速度の励行とシートベルト着用、㉛安全運転の確保、㉜安全速度の励行とシートベルト着用、㉝安全運転の確保、㉞安全速度の励行とシートベルト着用、㉟安全運転の確保、㊱安全速度の励行とシートベルト着用、㊲安全運転の確保、㊳安全速度の励行とシートベルト着用、㊴安全運転の確保、㊵安全速度の励行とシートベルト着用、㊶安全運転の確保、㊷安全速度の励行とシートベルト着用、㊸安全運転の確保、㊹安全速度の励行とシートベルト着用、㊺安全運転の確保、㊻安全速度の励行とシートベルト着用、㊼安全運転の確保、㊽安全速度の励行とシートベルト着用、㊾安全運転の確保、㊿安全速度の励行とシートベルト着用、

ヘルメット、シートベルト 着用の励行を

この運動は、広く県民に交通安全思想、交通道徳を普及徹底し、正しい交通ルールとマナーの実践を習慣づけることにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的として行われます。家庭、運転者、歩行者はとくに次のことを守りましょう。

「新入学児童を交通事故から守りましょう」
子供と一緒に通学路を何

回となく通って危険な箇所をチェックし、安全な歩き方と正しい横断などについて指導しましょう。
道路を横断するときは、「自転車横断帯」や「横断歩道」を渡りましょう。
車の直前、直後や、駐車

子どもと老人の安全を



安全のため

日本経済の飛躍的発展を支えてきたのは自動車であり、今、流通機構の維持に主役を果たしているのも自動車であると言われている。また、現代社会は人と物が大量に移動している、これらの移動なしには社会が機能し得なくなっています。

そして自動車は現在、五千五百万台、免許人口も四千七百万人、適齢人口の半分以上がドライバーとは、まさに大量交通の車社会で国民皆免許時代とも言える段階に進んできました。

しかし、一方では死亡、全国で四十二万人が死傷し、千四百万人が負傷し、後遺症に悩む身障者も十数万人に達しているという事実です。

最近の統計をみると、交通事故は全国で一分間に一件発生し、一時間に一人が

死亡し、五十一秒間に一人が負傷していることになり、かくして交通事故は、今や国民が日常生活の中で抱く不安の最大のものとなつていきました。

このような現実から、交通事故防止は、誰もが深い関心をもつべき重要な問題となり、その対策も数多く実施されていますが、その

「怒り」はドライバーの敵

山梨県交通安全協会 常任副会長 吉田文男

中々、とくに大切なことの一つとして「怒りはドライバーの敵」という課題を提起したいと思つています。「怒りと運転」という映画があります。ドライバーの怒りやあせりが、どれほど多くの交通事故を発生させているかを、具体的事例で見せてくれます。

また、事故を起したドライバーを警察で調べてみると、たいてい頭にきた怒り(おこり)とか、おれの腕が泣く(おこり)というこぼれが、結局、よきドライバーの第一条件、あるいは重要な徳目である、怒りを押さえることができる、ということだろふと思われまふ。

「個室」即ち自分一人だけの部屋に居る気持ちは、全く自由な、好き勝手な気分です。

したがって、道路は公共のもの、みんなが仲よく譲り合つて使つべきものと頭では分つていても「個室の心理」が、それを忘れさせてしまつてしまふことなのです。

今、交通事故が、再び不気味に増加のきざしをみせているとき、怒りの心にはブレーキをかけて、思いやりの心の連鎖反応が道路の到るところにその輪を拡げていくことを、願わずにはいられません。



中の車と車の間から横断しないようにしましょう。
子供と老人を交通事故から守りましょう
子供や老人を見たから、必ず徐行して安全を確かめましょう。
道路を横断するときは、一度とまって左右の安全をたしかめましょう。
夜、外出するときは、反射するもの、懐中電灯などを持って目立つようにしましょう。

道路は、絶対に出るべきでない場所です。横断歩道や歩道を渡るときは、道路の直前、直後や、駐車

二輪車(バイク)の交通安全
飲酒運転は絶対にやめましょう。
下駄やサンダルでは乗らないようにしましょう。
交差点では、必ず安全を確かめましょう。
大型車には近よらないようにしましょう。
スピードはひかえめに、カーブの手前で十分スピードを落しましょう。

思いやりと ゆずる心で
新しい希望と期待をもって一九八三年の新春を迎えつつの間、三月を過ぎました。全く歳月の流れは早いと思ひます。
今、大きな社会的関心事となつてゐる交通問題も、このところ一層きびしさを増しています。交通事故は全国的に数年前から増勢に転じ、昨年は六年ぶりに死者数が九千人を超え、とくに次代をなす若者による無謀運転や二輪車事故が目立ち憂慮されています。県内においても「酒を飲み無免許」はわれら老女死ね等々、交通事故の悲報が新聞紙面ににぎわし、ついに年間死者は前年を大幅に上回り、百八人の犠牲者となりました。

確かに現在の道路はきびしい場所です。怒りも出まふし、いらぬも起きまふし、それにも増して、車は人を怒りっぽくさせる容器だといふことです。運転台に納まるドライバーは、わがまま勝手な気分支配されがただといふ。この車が持つ魔性を運転台の構造がもつた個室の心理、だと説く学者もいます。

本年に入つてからも依然として増勢が続く、とくに交通弱者のお年寄りや飲酒運転、スピードの出し過ぎなど無謀運転による悲惨な死亡事故が続いていふ。このところ少年の非行問題が目立っています。とくに中学生の暴力事件など目に余るものがあります。公園で休んでいる浮浪者が、無抵抗であるのを幸いに、殴る蹴るの暴行を加え死傷者をだしたり、役員選挙の結果を恨み、大勢で少女にリンチを加える等、まさに自分勝手なわがまま、弱い者のいじめを平然とやつてける風潮は、人の命の尊さや思いやりの気持ちは無さからくと言えまふ。お互いが社会生活を続けるためには、守るべきルールがあるはずだ。

甲府安協など全国表彰

第23回交通安全国民運動

中央大会を開催

全日本交通安全協会と都道府県交通安全協会主催、総理府、警察庁など関係省庁、団体後援の「第二十三回交通安全国民運動中央大会」が一月十八日、十九日の両日東京で開催されました。

第一日は、日本都市センターホールで基調講演が行われたあと、「地域」「企業」「婦人」「子ども」の四部会にわかれて町会館など四会場において分科集会を行い、本県から地域部会長に甲府安協・萩原茂賀副会長、市川安協・上田誠会長、企業部に東安協・長、企業部に東安協・長、甲府安協・中山文雄会長、東電山営業所総務課・河西西野浩治課長、婦人部に塩山市・田辺国代婦人交通指導員が参加しました。また、今回は婦人部長として県交母・鶴田美枝会長、議長補助として県交協・塩川専務理事が中央の指名で特別参加し、研究討議を総括して注目されました。

第二日は、日比谷公会堂で、全国各地において交通安全を推進している人たちの約三千人が参集し、盛会のうちに本会議が開かれました。

本会議には、常陸宮・同妃両殿下がご臨席になり、お言葉を賜り、内閣総理大臣代理・後藤田官房長官など来賓の祝辞がありました。また、県交母・鶴田会長など各部会の議長から各部会での討議の結果が報告され、思いやりと良識ある交通安全の育成を基本とした大会宣言を採択しました。

続いて交通安全功労者・優良運転者・交通安全優良団体等の表彰式が行われ、したが、本県関係の受賞者は次のとおりです。

優良運転者 伊東為治 富士急行 (緑十字銀章)

交通安全功労者 甲府安協副会長萩原茂賀 市川安協会長 上田 誠 優良運転者 折居 実 山梨交通

大会宣言

交通事故は、数年前から増勢に転じ、昨年は六年ぶりに死者数が九千人を超えた。とくに、若者による無謀運転、二輪車事故等の増加は憂慮にたえないものがある。

ここに第二十三回交通安全国民運動中央大会を開催するにあたり、思いやりと良識のある交通社会人の育成を基本に、次の諸対策を強力に推進することを誓う。

一、安全運転五則の徹底
(一)安全速度を必ず守る
(二)カーブの手前でスピードを落とす
(三)交差点では必ず安全を確かめる

二、歩行者、自転車、とくに、子どもと老人の事故防止

三、原動機付自転車、自動車、二輪車の安全教育の推進

四、企業等における安全対策の強化

五、シートベルト、幼児保護具、ヘルメット着用の励行

右 宣言する。

昭和五十八年一月十九日 第二十三回交通安全国民運動中央大会

常陸宮殿下のお言葉

多年にわたる国民一体の努力により減少をつづけてきたわが国の交通事故は、ここ数年その勢が変化し、再び増加の傾向をみせるとともに、年間六十万人にのぼる多くの人が交通事故により死傷していることは、まことに痛ましいことであり、憂慮にたえないところであります。

本日ここに、第二十三回交通安全国民運動中央大会が開かれ、日頃交通安全のために尽力されている皆さまが、

全国の各地域、職種から多数参集され思いやりのある交通道徳を確立し、交通事故を減少させるため、決意を新たにして一層強力な運動を展開されますことは、まことに意義深いものがあります。

どうか皆様方が、一致協力してこの運動を盛りあげ、交通事故の防止にさらに大きな成果をあげられるよう望んでやみません。

おわりに、平素の交通安全活動の功勞により、本日表彰を受けられた方々に対し、深く敬意を表します。



常陸宮・同妃両殿下ご臨席を仰ぎ開かれた本会議



婦人部会で議長をつとめる県交母・鶴田会長

優良交通安全協会 甲府交通安全協会

優良交通安全協会 協理 甲府交通安全協会

優良交通安全協会 協理 甲府交通安全協会

優良交通安全協会 協理 甲府交通安全協会

優良交通安全協会 協理 甲府交通安全協会

交通栄誉章に輝く 萩原茂賀氏

上田さんは、昭和三十八年市川安協評議員に就任して以来、同安協の副会長・会長を歴任し、現在県安協理事として活躍しているが、長年交通安全に寄与した功績が認められ、功勞者として銀章受賞となったものです。地区の会長としても率先垂範し、また、県理事として県安協の育成にも積極的に尽力し、交通安全活動とともに、その腕力をふるっています。

二輪車に乗るときは ヘルメットをかぶろう

上田さんは、昭和三十八年市川安協評議員に就任して以来、同安協の副会長・会長を歴任し、現在県安協理事として活躍しているが、長年交通安全に寄与した功績が認められ、功勞者として銀章受賞となったものです。地区の会長としても率先垂範し、また、県理事として県安協の育成にも積極的に尽力し、交通安全活動とともに、その腕力をふるっています。

二輪車の交通事故

危ない女性バイク 死亡事故も急増

昭和三十七年中的の県内における二輪車(原付自転車を含む)以下同士の交通事故は、全事故が発生件数、死者数等増加した中で、とくに著しい増加をみせており、全事故に占める二輪車事故の割合は過去最高の三五・二%、死者の増加率は三八・一%、交通事故発生数および死者数増加の主たる要因をなしています。

近年、二輪車の保有台数は増加傾向にあり、とくに原付自転車は全国第一位の保有率を占めているとともに、手軽な交通手段として人気が高く、今後一層の増加が予想されることから、二輪車対策を交通死亡事故抑止対策の重点として推進しています。

昭和三十七年中的の二輪車による交通事故は、発生件数、死者、傷者いずれも増加し、とくに死者の増加が



著しい。また、過去十年間の推移をみると昭和四十八年に次ぐ発生で、全事故に占める二輪車事故の割合でも最高です。

(一)警察署別発生状況 発生件数では甲府、南甲府署の両署が圧倒的に多く

全体約六〇%を占めていて、このことから市町村別でも甲府市が四八・七%を占めているほか、七市に九〇九件、六四・七%が集中しています。

(二)月・時間・曜日・道路別発生状況

月別では十月一六五件、六月一四〇件、八月一三四件等の順位で発生し、夏から秋にかけて多発傾向を示し、冬の二、三月が最も少なくなっています。

時間別では、八時から十時(二四四件)、十六時から十八時(二四〇件)の通勤・通学時で全体の三五%が発生しています。

曜日別では、土曜日(二二〇件)が最も多く、次いで、月曜日(二〇四件)、金・水曜日(一九七件)の発生で土曜日を除くと極端な差異はありません。

道路別では、中央道(八件)、国道(三二八件)、八件、国道(四九〇件)、市町村道(五五一件)と市町村道・県道での発生が多いが、死亡事故では国道での致死率が高くなっています。

二輪車の交通事故発生状況

区分	発生件数			死者数			傷者数		
	57年	56年	増減	57年	56年	増減	57年	56年	増減
全事故	3,930	3,779	+151 (+4.0%)	108	91	+17 (+18.7%)	5,103	4,914	+189 (+3.8%)
二輪車事故	1,383	1,267	+116 (+9.2%)	29	21	+8 (+38.1%)	1,258	1,174	+84 (+7.2%)
全事故に占める割合	35.2%	33.5%		26.9%	23.1%		24.7%	23.9%	

※二輪車同士の事故64件については第1当事者のみを「発生件数」として計上し「当事者数」へは両当事者の数を計上した。

と「左折時」「右折時」「追越時」の比率が高いのが特徴です。事故事例としては、

○「左折時」では、交差点で二輪車側が直進中、左折の車両と衝突

○「右折時」では、交差点で二輪車が左側端を直進中、対向右折車両と衝突

○「追越時」では、二輪車が直進中、右側方を追越し追抜きの車両と接触等の事故が多くなっています。

(二)違反原因では、「最高速度」「通行区分」「一時不停止」等の比率が極めて高く、また、車種別では、排気量の大い自動二輪車は「最高速度」「追越」「通行区分」等、速度に関連した違反が多く、排気量の小さい原付自転車では、「優先通行妨害」「一時不停止」「信号無視」等交差点通行時の違反が多くなっています。

(三)「運転経歴」では、三年未満の初心者が四四・七%と圧倒的に多く、「年齢別」では、二十歳未満が最も多く、二十歳代以下の若者が六〇%を占めています。また「車種別」では、原付自転車が一・六%と異常に多い。排気量の大い自動二輪車(小・軽)は、二九歳以下の若い男性が九二・七%と大半を占めています。

(四)「性別」では、男性七四・二%に対し、女性二五・八%で男性が約二・九倍多いが、原付自転車では女性が三五・一%の発生をみえています。

(五)「通行目的」による事故は、レジャー、買物等、私的用途による事故が六三・三%、通勤・通学・業務中が三〇・六%で私的用途による事故が多くなっています。

(六)ヘルメットの着用率は「自動二輪九一・八%」に対し、「原付二六・一%」と原付の着用率が極めて低調です。

原付の着用率を男女別でみると「男二七・二%」「女三三・九%」と女性の着用率が低くなっています。(交通企画課)

死者激増

全国で9,000人台に

県内は飲酒・二輪車が目立つ



ゆっくり走ってみませんか

全国の事故

警察庁がまとめた昭和五十七年中の交通事故は、発生五万一千七百三十四件、死者九千七百三十三人、傷者六

十二万四千九百七十四人で前年に比べて件数・死者・傷者とも、いずれも増加しました。六年ぶりに死者八千人台を超える。

交通事故による死者は、昭和五十二年以降、五年間続いた八千人台を超えて九千人台となり、再び死者激増の傾向となりました。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

本県の交通事故による死者は、昭和四十四年から昨年に至るまで、毎年減少してきて、昭和五十七年から増加し、昭和五十八年まで増加を繰り返して、国民一人ひとりが、安全意識に徹することが事故を防ぐ近道であることを改めて自覚すべきときでありましょう。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

昭和五十八年中の交通事故による死者の抑止目標は、「八十九人以下」とし、県警察の組織をあげて目標達成のため、「二輪車事故の防止」と「飲酒運転の防止」を二本柱として効果的な具体的な対策を推進し、県民の期待に応えることとしました。

このような情勢のもとで、昭和六十年までに全国の交通事故による死者を八千人以下とする長期目標をふまえて、過去の実績、全国人口に占める県人口の割合、免許人口、車両の保有率等を勘案し、本県の位置づけを基として定められました。県民の皆様の協力を期待しています。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

本県の事故

県下の昨年の交通事故は、発生三千九百三十件、死者百八人、傷者五千一百一十人で前年に比べて、件数は百五十一件四・〇%、死者は百七十八・七%、傷者は百八十九人三・八%といずれも大幅に増加しました。

死亡事故の特徴傾向は、昨年の死亡事故の特徴傾向は次のとおりです。

◇発生を路線別にみると、国道四十四号四十一人、県道三十八号四十一人等幹線道路で多く発生しました。

◇事故類型では、車対車四十三件四十四人、車単三十三件四十四人、人対車二十一件二十三人と踏切一人を除き、いずれも増加しました。

◇薄暮時十八件二十二二人、深夜十四件十四人、曜日別では、土曜日十九件二十二二人、日曜日十九件二十二人と多発しました。

◇状態別では、歩行中二十四人前年比七・四%増、二輪車運転中二十六人前年比三〇・〇%と増加しました。

◇子供は減少したが、老人三五・〇%増、高校生一四・〇%と大幅に増加しました。

抑止目標は89人以下に

県警の抑止目標

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

昭和五十八年中の交通事故による死者の抑止目標は、「八十九人以下」とし、県警察の組織をあげて目標達成のため、「二輪車事故の防止」と「飲酒運転の防止」を二本柱として効果的な具体的な対策を推進し、県民の期待に応えることとしました。

このような情勢のもとで、昭和六十年までに全国の交通事故による死者を八千人以下とする長期目標をふまえて、過去の実績、全国人口に占める県人口の割合、免許人口、車両の保有率等を勘案し、本県の位置づけを基として定められました。県民の皆様の協力を期待しています。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

昭和五十七年中の県内の交通事故による死者は、百八人で前年に比べ十七人、八・七%増加し、人口十万人当たり死者数も二・三・三七人と全国平均を大幅に上回りました。

無事故は家庭の笑顔から

県交安母活動推進大会

県交通安全母の会連合会(鶴田美枝会長)は、二月十八日県農業共済会館において、交通安全母活動推進大会と、指導者講習会を開催しました。

大会は、県知事代理、県警交通部長、県安協副会長、県安協専務理事など来賓多数を迎えて、交通安全母の会連合会(鶴田美枝会長)は、二月十八日県農業共済会館において、交通安全母活動推進大会と、指導者講習会を開催しました。

交通安全に果たすべき母親の役割についての認識を高め、より安全な社会づくりのため一層努力するとの大会宣言を採択しました。

引き続き安全教育研究所長星忠通講師から「子育ての中の交通安全教育」、県警酒井警務交通部長から「交通安全の主役」と題する講演があり、今後の交通安全の重要課題として、家庭における安全思想徹底の必要性を研修しました。

その後、各地区交通安全母の会連合会長の表彰のほか、功労二団体・功労役員等百二十名に対し表彰状や感謝状を贈りました。



大会で講演する星忠通氏

新規購入 映画の紹介

山梨県交通安全協会では新しく次の映画を購入しました。無料でお貸しいたします。ご利用ください。

一 自転車
正しい乗り方
交差点のわたり方と交通ルール
16ミリ、カラー、13分

二 交差点のわたり方と交通ルール
この映画は、交差点に焦点をあてて、交差点の安全な渡り方を中心に、自転車に安全に乗るために守らなければならない基本的な交通ルールについて、野球チームを舞台に、野球のルールとの対比から、その必要性と交通ルールを守ることの大切さをわかりやすく映像化したものです。

三 急がばまわれ
高齢者の交通安全
16ミリ、カラー、23分

四 原付のおとし穴
事故が教える危険
16ミリ、カラー、25分



今年こそはの祈りをこめて

誓いも新たに

～交通安全祈願祭～

県安協と県警交通関係者は、一月八日、武田神社で交通安全の祈願を行いました。

祈願には、西村本部長、中村会長をはじめ、県安協役員、県警交通部等七十名と、バトカー、白バイが参列、お祓いを受けてこの一年の交通安全と事故防止を祈願しました。昨年は県民の願いもむなしく交通事故死者は百人を突破してしまい憂慮すべき傾向を示しております。

本年は、八十九名以下を目ざして一層の努力を尽すことを誓い合いました。

山梨県交通安全協会会員の
ための災害共済のお奨め

万人は一人のために 一人は万人のために

※保険会社の職員が内容説明に伺います

提供団体
山梨県交通安全協会

引受会社 **協栄生命**

甲府市丸の内三丁目20-3
TEL (0552) 22-4836(代)

交通 教室

まず被害者救済 三つの責任果たせ

もしも交通事故にあったら

「交通事故の被害者や被害者に思っていないように...」

交通事故の被害者や被害者に思っていないように... 交通事故は、毎年六十万人もの人が死亡したり負傷したりしています。

事故現場ですること

「被害者のなすべきこと」 自動車運転中人身事故を起した場合は、運転者は刑事責任、民事責任、行政上の責任の三つの責任を果たさなければならない。



交通死者ゼロ570日を記念し植樹

金刑等に処せられますが、この刑に服さなければならぬのが刑事責任です。

民事責任は、加害者として被害者に損害賠償をしなければならない責任です。

行政上の責任は、運転免許の取り消しや停止など、行政上の不利益な処分を甘受しなければならない責任です。

死亡事故年間ゼロ部 達成記念式典を開く

下部

下部警察署(伊東竹男署長)では、管内の交通安全協会、交通安全連帯者協議会、交通安全母の会と共催で、二月十日山梨市民会館で、昭和五十七年中交通死亡事故「ゼロ」を達成した記念式典を開催しました。

わなければならぬのは、被害者の救済です。そのほか、被害者に信号無視などの落ち度がある場合は、それを証明してくれぬ人をみつけれ、連絡先などを聞いておくといわれています。そういう人がいれば、加害者、被害者、双方の責任を明らかにする証人になつてもらうことができます。

「被害者のなすべきこと」 歩行中に自動車事故で被害を受けた場合、事故を起こした運転者(加害者)には、被害者の救済や警察への連絡などが義務づけられています。

更新手続について 運転免許証を持つ皆さんの利便を図るため、昨年十月から、八田村の交通安全協会において、日曜窓口を開設しておりますが、本年はこれに加えて一月二十日から更新免許証の即日交付を開始しました。

山梨から長野へ暴走、高校生ら六十一人検挙、深夜集団で蛇行運転、暴走族、姫連合のリーダー五人を道路交差法違反の疑いで逮捕。私は目の前の新聞記事がぐるぐる回転しながら、大きな渦のようになって、自分に迫ってくるのを感じながら、やはり暴走族はなくならなかつた」と力なくつぶやくにはいられませんでした。

「第一に家庭の態度だと思ふ。私とそれ程年齢も違わない若者たち、それだけに心も深く、一日も早く立ち直ってくれることを心ひそかに願っていたのです。」

「第二に、地域社会の甘さです。無謀な暴走行為を見ても、それが我が子でない限り、見て見ぬふりをする大人達にも大きな問題があるはず。」

「第三に、学校です。中学も高校も、最近では、かなり変わりつつあるようですが、受験のための学校という傾向が、甘えるからこそ、安易に暴走という非人間的な道を選ぶのです。」

「現代の家庭も、社会も、学校も、このように何かしら真剣に取り組もうとする若者の芽を、厳しく、やさしく育てて欲しいと思ふのです。」

「自転車の整備の促進を申し合わせ」 日本交通管理技術協会(支所長 塩川博務理事)では、二月七日(ニュー機山)で警察、自転車軽自動車商同組合との合同会議を開催し、自転車安全整備制度の具体的なすめかたを協議しました。

「更新手続について」 運転免許証を持つ皆さんの利便を図るため、昨年十月から、八田村の交通安全協会において、日曜窓口を開設しておりますが、本年はこれに加えて一月二十日から更新免許証の即日交付を開始しました。

もう暴走はしないで

泉 中川山雅代



山梨から長野へ暴走、高校生ら六十一人検挙、深夜集団で蛇行運転、暴走族、姫連合のリーダー五人を道路交差法違反の疑いで逮捕。私は目の前の新聞記事がぐるぐる回転しながら、大きな渦のようになって、自分に迫ってくるのを感じながら、やはり暴走族はなくならなかつた」と力なくつぶやくにはいられませんでした。

「第一に家庭の態度だと思ふ。私とそれ程年齢も違わない若者たち、それだけに心も深く、一日も早く立ち直ってくれることを心ひそかに願っていたのです。」

「第二に、地域社会の甘さです。無謀な暴走行為を見ても、それが我が子でない限り、見て見ぬふりをする大人達にも大きな問題があるはず。」

「第三に、学校です。中学も高校も、最近では、かなり変わりつつあるようですが、受験のための学校という傾向が、甘えるからこそ、安易に暴走という非人間的な道を選ぶのです。」

「現代の家庭も、社会も、学校も、このように何かしら真剣に取り組もうとする若者の芽を、厳しく、やさしく育てて欲しいと思ふのです。」

「自転車の整備の促進を申し合わせ」 日本交通管理技術協会(支所長 塩川博務理事)では、二月七日(ニュー機山)で警察、自転車軽自動車商同組合との合同会議を開催し、自転車安全整備制度の具体的なすめかたを協議しました。

「更新手続について」 運転免許証を持つ皆さんの利便を図るため、昨年十月から、八田村の交通安全協会において、日曜窓口を開設しておりますが、本年はこれに加えて一月二十日から更新免許証の即日交付を開始しました。

「更新手続について」 運転免許証を持つ皆さんの利便を図るため、昨年十月から、八田村の交通安全協会において、日曜窓口を開設しておりますが、本年はこれに加えて一月二十日から更新免許証の即日交付を開始しました。

山梨自動車学校 八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内 TEL 05528-5-0752